

## 化学物質に敏感な人のアライになる

私は化学物質に敏感なコウ・カウンセラーのアライです。いいアライであるために、母親が私を妊娠中に吸っていたタバコによって、自分が傷つけられていたことをディスチャージし始めました。私は18年間間接喫煙者だったのです。母は私が5年生の時までタバコを吸っていたし、父も6年前に喫煙に関連するガンで亡くなる直前までタバコをやめませんでした。父は酪農をしていたのでいつも家にいました。タバコをやめようとしたこともありましたが、やめようとするあまりに落ち込む感じがするので、吸い続けました。

私は小学校に行くようになると、家の中でのタバコがどんなに嫌いかを口に出すようになりました。私はタバコのせいで父が大嫌いなように感じていたので、父と近づくことができませんでした。コウ・カウンセリングのセッションで、お腹の中から母に話しかけているところを想像して、母にやめて、と言うと、簡単にディスチャージが起きます。今は喜んで新鮮な空気を吸っています。(1950年代には、喫煙が胎児におよぼす影響についての情報を得る方法を母は持っていませんでした)。

私は小さい頃の身体的な傷と、そこからくる無力感をディスチャージすることで、どんな再評価が起こるのに興味津々です。環境のことをよく考えることとどう結びつくのかな、とも考えます。

RCerの中には、化学物質に敏感な私のコウ・カウンセラーのいいアライもいて、彼女の必要なことに対応しています。しかし女性の中には、彼女との関係よりも香料入りのヘアケア用品を選んでる人達もいます(別の言い方をすると、彼女をサポートするかわりに、美容産業をサポートすることを選んでるということです)。香料のない洗濯石けんやシャンプー、ローション、石鹸だけを使い、どんな香水も使わない方向に変えていくのならば、私たちRCコミュニティには取り組むべきことがあります。これは「みんなは一人のために」のチャンスです。そして私の知っている限りでは、このような製品に入っている化学物質には毒性があるので、結局これは「一人はみんなのために」のチャンスでもあるのです。

今私は、白人の人種差別をなくす、香料なしの白人のクラスを教えています。化学物質に敏感な私のコウ・カウンセラーがアシスタントをしています。このクラスにいるためには、みんな香料なしでいなければなりません。私はクラスで「あなたの化学物質に敏感であることに関する感情は、人種差別とどんな関係があると思いますか？」と聞きました。私はこの感情は、人種差別の抑圧者側のパターンに似ていると思います。ターゲットにされている人達を責めるパターン、防衛的になる、悩んでいるように見える、自分を悪く思う、ごまかしたり嘘をついて自分自身から逃げたいと思う、自分が感じていることに向き合わないために、ターゲットにされている人達にどこかに行って欲しいと思う、というパターンです。

Being an Ally to Someone with Chemical Sensitivities

プレゼントタイム 2003年4月号、12 ページより

Beverly Bajema

訳：横山 AiAi 寛子

この文章の著作権はラショナルアイランド社にあります(翻訳2007年。原文2003年)。

この翻訳はあくまで草稿として扱ってください。